

ザンビア田舎の風景



湖に沈む夕日



## NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

### ORMZ ニュース第 34 号 (H26.11.29)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (fax0985-54-5711) 文責：理事長 日高良雄



**はじめに** 早 11 月も終わりとなり、年末が目の前になりましたね。

皆様にはお元気にご活躍のことと思います。

皆さんからご心配をいただいているエボラ出血熱ですが、ザンビア共和国の隣国、コンゴでの発生は終息宣言が出されました。ご安心ください。

**会の経過報告** 先日来申請しています認定 NPO 法人申請について担当部所から連絡があり、現在最終のチェックを行っているところです。できる限り早急に申請書を整えたいと考えております。認定された際にはお知らせします。

今回は、山元先生からの緊急報告です。日本とザンビアの医療制度等の違いを感じますね。

併せて、山元先生に代わって現地で管理をいただいている山本さんの報告です。

**賛助会費の納入について** 今年は本当に多くの方から賛助会員になっていただき、心から感謝申し上げます。そのような中恐縮ですが、26 事業年度 (26 年 1 月から 12 月です) の賛助会費をまだ納入されていない方は、どうぞ賛助会費(一口 5000 円、一口以上) の納入をお願いします。納入したかどうかわからない際は、法人代表 [info@ormz.or.jp](mailto:info@ormz.or.jp) または日高 ([hidaka1956@gmail.com](mailto:hidaka1956@gmail.com)) へ連絡してください。折り返しお返事をさせていただきます。どうぞよろしくをお願いします。

★郵ちょ銀行からの振替 口座記号番号 01720-9-126351

加入者名 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金 郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称 (全角) : トクヒ) ザンビアノヘンチイリョウオシエンズルカイ (注: ヲ→オ)

### 現地活動報告 (山元先生、山本ひとみ様から)

みなさまお元気ですか。すっかりご無沙汰しています。実は今、日本に帰国しています。

10 月 19 日にルサカに戻り、日本でひいたカゼのせいで、熱が続き調子が悪かったのですが、ようやく元気になり、井戸掘削の計画を進めていました。10 月 31 日朝、右下腹部の痛みがあり、嘔吐も伴い 4-5 時

間続きました。腰痛もあり、自分で腹部を触っても圧痛ははっきりせず、もしかしたら尿管結石かもしれないと考えましたが、痛みがほぼ消失したことから、午後は水分を多めに取りながら、いつも通り過ごしました。翌11月1日土曜日は銀行に行き、お金をおろし、用事を済ませて、運転手のスルさんをお昼には帰しました。ところが何となくからだがきつく横になったのですが、今まで経験したことのないような激しい右下腹部が始まりました。嘔吐も伴い、痛みは徐々にひどくなります。さすがにこのままではどうにもならないと考え、スルさんを電話で呼び出し、知人から聞いていた私立のCFBメディカルセンターに連れて行ってもらい、また、ルサカに滞在中の山本ひとみさん(賛助会員)にも事情を説明し、メディカルセンターまで来てもらいました。ルサカで仕事をしておられるJICA専門家の先生にも来ていただきました。とにかく痛みが強く、すぐにベッドに案内してもらえましたが、医師がなかなか見えず、七転八倒の状態、30分ほど待ったのでしょうか。駆けつけた医師は、看護師に痛み止めの麻薬(オピスタン)100mgの筋注を指示し、点滴を開始するために静脈確保をしようとするのですが、これがなかなか入らず、4回目ようやく入りました。筋注100mgは多すぎるので、50mgにしてくれと頼みましたが、結局100mg注射され、痛みは少しずつ治まってきました。その後、血液・尿検査、腹部レントゲン、腹部超音波検査と指示があったのですが、これがとても時間がかかりました。山本さんから、後で聞いたところ、まず診察料に395Kwacha(日本円で6,600円 以下日本円で記載)、尿・血液検査に4,400円、レントゲン2,600円、超音波検査13,000円(時間外だったので高かったそうです)と、前払いしないと検査してくれなかったようです。結局超音波検査で右下腹部に嚢胞様の腫瘍があり、卵巣嚢腫の茎捻転の疑いありということになり、入院することとなりました。入院するためには、109,000円の頭金を払わなくてはいけなくて、手持ちのお金が十分ではなく、なかなか入院させてもらえませんでした。内科医に呼ばれてやってきた外科医の一言で何とか入院となりました。外科医からは、明日腹部CT検査をして、手術になるとの説明を受けました。痛みは大分治まっていますが、まだ続いていましたので、看護師が非ステロイド性解熱鎮痛薬(ボルタレン)の筋注100mgをすと言います。日本では座薬でも多くて50mgですので、半分にしてくれと頼みましたが、医師の指示なので100mg注射されました。おかげで痛みはほぼ0になりました。翌日、外科医が回診にきて、CT検査の指示が出ましたが、痛みが治まっていたこともあり、退院して、日本に戻り、検査を受けたい旨を話しました。とても気分を害されたようでしたが、CT検査で約40,000円と、今後どれだけお金がかかるか不安であることを伝えて、了解を得ることができました。そして鎮痛剤の坐薬を多めに処方してもらいました。

とにかく1日でも早く、日本に戻ろうと、山本さんに航空券の手配をしていただき、昼に退院し、活動内容の申し送りなどを書いて、同日2日夜のドバイ経由羽田行の飛行機に乗ることができました。飛行機の中では、ありがたいことに痛みはなく、とにかく寝ていましたが、3日23:00に羽田に着き、櫻井さん(設立時からの会員)の顔を見た時には、うれしくて胸がいっぱいになりました。一晚羽田のホテルに泊まり、4日午後宮崎に戻りました。宮崎のいくつかの婦人科のある病院に電話して診察をお願いしましたが、紹介状がないと診察できないと言われ、途方にくれましたが、自治医大の先輩が開業しておられることを思い出し、その診療所を受診しました。卵巣嚢腫の茎捻転疑いで、翌5日手術となりました。手術の結果、約10cm大の卵巣嚢腫が2回転半茎捻転していたとのことでした。軽い腹膜炎も起こしていたようですが、術後経過は順調で、病理検査の結果も問題なく、11日目には退院することができました。退院後、体力も徐々に回復し、12月はじめにはルサカに戻る予定です。

このような経験はもちろんはじめてです。無事に日本に帰れて、手術できたのは、山本さん、JICAの先生、櫻井さん、先輩の先生、診療所スタッフの皆様、多くの方々のおかげです。やさしさ、親切な心遣い、思いやりがこれほど身に染みたことはありませんでした。心からお礼申し上げます。私の不在の間も、山本さんが会計処理、事務所スタッフの監督などを一手に引き受けて下さり、活動は継続されています。井戸も3基掘れて、現在水質検査の結果を待っているとのこと。ありがとうございます。

多くの人々に支えられて活動ができているのだと強く感じています。これから健康面には十分に気をつけ、感謝の気持ちを忘れずに、活動していきたいと思います。そして、もっと心やさしい人になりたいと思います。

どうぞ皆様、おからだ大切にされて、お元気でお過ごし下さい。ありがとうございます。

### 山本ひとみ様からの現地活動報告

#### ◎11月5日 ムワンタヤ地区への巡回診療

同行者：Mr.Muleta, Mr.Stunbeko, Mrs.Chabulika, Mr.Sibanda

患者数：約100名で、主な症状は咳、下痢

11月7日のセンシタイゼーションのアレンジ・打ち合わせ

#### ◎11月7日 ムワンタヤ地区でのセンシタイゼーション（健康ドラマの実演）

来訪者：220～230名 特に女性が多かった。小学生はごくわずか

ドラマグループのパフォーマンスも盛り上がりました

#### ◎ルアノ地区での追加の井戸掘削

11月6日、エンジニアと現地に行き、井戸掘りの場所を確認

11月10日現在で、すでに2基(No.2 および No.3)は掘削終了し、水も出ているとの報告

No.1については掘削できないとのことで、代替え場所をエンジニアに連絡、現地コミュニティスタッフとヘッドマンに掘る場所の対応をしてもらい、代換え地で掘削。水が出ました。

水質検査依頼済み（→21日に結果が判明、水質は3ヶ所とも異常なしでした。）

雨が本格的に降る前に、作業が終了して良かったです。

#### ◎巡回診療のための施設整備

ようやく準備が整い、ドアフレーム、グリルドア、窓枠、アイロンシートなど、必要資材を11月14日に購入して、スルさんの車ですべて運搬。残りの小さな資材、窓ガラスなどは、作業進捗に合わせて調達予定。

#### ◎11月11日は、亡くなられた大統領の国葬。携帯電話を通して、道路封鎖情報が送られてきました。

ザンビアも少しずつ便利になり、情報もスムーズに流れるようになってきたなと感じています。

#### ◎11月12日ルアノ地区巡回診療

同行者：Mr.Muleta, Mr.Stunbeko, Mr.Sibanda, Mrs.Chabulika

患者数：76名 主な症状は咳、目の痛みなど

#### ◎11月19日 ニャンカンガ地区巡回診療

同行者：Mr.Muleta, Ms.Elizabeth, Mrs.Chabulika, Mr.Sibanda

患者数：すいません不明です 主な症状は咳、目の痛みなど

#### ◎11月21日 ニャンカンガ地区で健康に関する啓発活動

一同が到着した11時には、コミュニティメンバー3人だけしかおらず、人が集まるのを待って開催13時半すぎに開始。地域の人曰く、「Plan Internationalの催しは午後に行われることが多く、人々は午後集まるのに慣れている」とのこと。集まったのは、約100名。主に女性。

ムワンタヤ地区と比べると人も少なく、手ごたえも乏しかった様子。

開始が遅れたため、戻ってきたのも21時過ぎと遅くなりました。

今後ともご支援のほどよろしく申し上げます。